

<認知症対応型共同生活介護用>

<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1471903128
法人名	株式会社 有愛
事業所名	グループホームゆう愛
訪問調査日	令和4年10月18日
評価確定日	令和4年11月17日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和4年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	14070903128	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	株式会社 有愛		
事業所名	グループホームゆう愛		
所在地	(238-0014) 神奈川県横須賀市三春町1-9-34		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和4年10月7日	評価結果 市町村受理日	令和5年1月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

交通量が少なく落ち着いた市街地にあり、交通の便がよく、道の起伏もない環境にあります。散歩や買い物といった日課を行ううえで適した環境にあり、個別に外出の機会を提供できるように取り組みを行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和4年10月18日	評価機関 評価決定日	令和4年11月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所は、株式会社有愛の経営です。事業所の開設から16年目を迎えた歴史と実績もあり、また、職員の定着率が良く、常勤・非常勤共に長年勤務されていることから、利用者や家族からの信頼も厚く、良好な関係性が構築されています。立地は、京浜急行「県立大学駅」から徒歩10分程の、国道16号線から海側に入った交通量の少ない住宅街にあります。近くにはショッピングセンターや大規模なマンションがあり、周辺の道は起伏も少なく、春には桜やつつじの花が咲くことから、散歩を兼ねて花を見にお連れすることもあります。

●事業所の理念は「利用者の権利を尊重しながら自分らしい生活を営んで貰う」とし、この理念を法人の運営方針の中に基本理念として掲げています。理念を理解・具現化しやすくするため、具体的に8項目の目標を定めてケアに臨んでいます。理念は入職時のオリエンテーションや、その後の職員の心得としても説明し、同じ共通認識を持ちながらチームケアを行っています。

●コロナ禍以前は、年に1回敬老会時に家族懇親会を開催して、家族からの意見、要望など聴き取る機会を作っています。毎月利用者の家族に「生活状況のお知らせ」を写真を添付して作成し、コロナの感染状況による面会の時間や回数などの知らせ等と同封して家族へ送っています。家族の面会時には、積極的に意見・要望を聴いて事業所の運営に反映させています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームゆう愛
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	明るく家庭的な雰囲気の中で、個々に状況に応じて自立した生活ができるよう支援している。また、各ユニットの特性を活かし、チームケアをかけた、個々の職員の能力に合わせた人材育成に努めている。	理念は、法人の運営方針の中に基本理念として掲げています。利用者の権利を尊重しながら自分らしい生活を営んで貰うため、具体的に8項目の目標を決めています。理念は入職時のオリエンテーションや、その後の職員の心得でも説明しています。理念の実践に向けて、各ユニットの特性を活かした、チームケアにも取り組んでいます。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	七夕、夏祭り等の地域行事への参加、中学生の体験学習、その他ボランティアの依頼、受け入れを行っている。また、散歩などの際は、日常的な挨拶をホーム全体で行えるよう心掛けている。また、地域での防災訓練等は、ホーム職員が可能な限り参加するよう努めている。 ※感染症対策のため、本年は未実施。	自治会に加入しており、コロナ禍以前は、夏祭り、七夕会、防災訓練などの地域行事に参加して交流を図っていましたが、現在は地域行事のほとんどが中止になっています。現在は散歩時や職員の出退勤時に、近所の方々と挨拶を交わす程度に留まっています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	挨拶を中心に近隣住民の方との交流に努めている。町内会のお祭り際には、ホーム駐車場を休憩所に使用して頂き、お神輿見学を兼ねて、地域交流を行っている。 ※感染予防にてお散歩のみ実施。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々、ご家族のご意見を可能な限り、ホームに反映できるよう取り組みを行っている。家族懇親会をご家族同志の交流を目的として実施。運営推進会議と合わせて行っている。 ※感染症対策のため意見聴取を行い、ホーム職員のみで実施。	現在は、家族や民生委員の方から、電話等で意見・提案などを聴取し、それを基に職員のみで2ヶ月毎に開催しています。意見・提案をしてくださった方には、直接検討結果を報告しています。事業所の玄関に議事録を置き、来訪時に閲覧出来るようにしています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、ご家族からの相談、またその他ホームにおける取り組みなどの確認事項等は、日常的に行うよう努めている。	横須賀市の指導監査課には運営推進会議の議事録提出、不明点や事業所での解決が困難な事案が発生した際に相談にのっていただくようにしています。横須賀市やグループホーム協議会からの研修案内には参加するようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わず、玄関チャイムを設置。常勤職員を中心に各職員が理解できるよう、人材育成、指導を行っている。また、身体拘束適正化における指針をもとに、委員会、研修会を定期的実施している。	身体拘束適正化における指針を基に、身体拘束適正化委員会や研修を実施しています。身体拘束適正化委員会のメンバーは、管理者と常勤職員とし、3ヶ月毎に日常ケアで発生する課題などについて検討し、議事録に残しています。不適切な言葉遣いなど見受けられた場合は、その場で注意しています。	今後の継続
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常勤職員を中心に各職員が周知できるよう、人材育成、指導を行っている。また、身体拘束適正化における指針をもとに、委員会、研修会を定期的実施している。	虐待の防止については、身体拘束適正化と同様に委員会の開催や、研修を実施しています。虐待の防止委員会は、身体拘束適正化委員会と同時に開催して、課題の検討結果などを議事録に残しています。指針やマニュアルを基に研修会を定期的実施し、虐待防止に努めています。	今後の継続
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまでの事例を活かして、常勤職員を中心に各職員が周知できるよう、人材育成、指導を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約における重点事項については、十分にご理解を得られるよう説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的にご家族の方との信頼関係が築けるよう努め、安心できるホームとなるよう日々改善に取り組んでいる。また、意見箱を設置し周知し、家族懇親会、運営推進会議、外部評価での家族アンケート結果でのご意見、提案を参考にし改善に努めている。対応等の改善については、各ご家族様に説明を個別に行っている。	コロナ禍以前は、年1回の敬老会に合わせて家族懇親会を開催し、意見・要望の聴き取りを行っていました。毎月個別に「生活状況のお知らせ」を写真添付で郵送し、事業所からのお知らせも同封しています。また、外部評価での家族アンケートも参考にし、事業所運営を行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットごとに2ヶ月に1回のフロアー会議の開催、また事業所全体の課題解決にむけた取り組みとして常勤会議を開催している。日常的に職員の関係性を深め、改善点等には積極的に取り組むよう努めている。 ※感染症対策のため、会議は必要時のみ実施。	職員からの意見や提案は、朝・夕の申し送り、2ヶ月に1回全員参加のフロアー会議の中で話を聴く時間を設けています。毎月開催している常勤者会議では、事業所全体の課題解決に向けて取り組み、改善点は積極的に実施しています。現在はコロナ感染症対策のため、会議の開催は、必要最小限にしています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	試用期間後、また年度末に個人面談を実施。各職員の就業態度、実績に応じた評価を行っている。	入職時から3ヶ月間は、試用期間として職員全員で支えるように指導しています。その後は毎年の年度末に個人面談を実施しています。個人面談では～職員の心得～等を基準にして就業態度や、各実績に応じた評価を行っています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の状況に合わせて、可能な限り外部研修への参加、会議内での内部研修に努めている。また、日々の業務の中で、指導が行えるよう取り組んでいる。	研修は、事業所の内部研修と外部研修に分けて行っています。内部研修は、会議開催時に合わせて開催するものと、介護計画の作成時等のOJTで行うものがあります。外部研修は、職員個々のスキルに合わせて受講しています。外部研修を受講した際は、報告書の提出があり、他の職員は閲覧しています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議（希望事業者）、また市のグループホーム協議会を通じて、研修会に参加。懇親会、ボランティア等には積極的に参加できるよう心掛け、他事業所との情報交換、共助に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ご本人の状況をふまえ、面会等の必要性など随時ご協力をお願いしながら、安心して過ごせる為の環境の構築に努めている。また、状況に合わせて、ご家族と密に連絡を取るよう努めている。 ※感染症対策のため、面会に制約あり。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの体制をご理解いただいた上で、密に連絡を取り、可能な限りご家族様の意向を考慮できるよう努めている。また、各ご家族の要望等フロアー職員にが周知できるよう情報の共有に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の様子、生活歴を十分検討し、ご家族の方と密に連絡を取りながら、ご事情に合わせて支援の方向性を示せるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	明るく家庭的な雰囲気の中で、個々の状況に応じて、生活の場として演出できるよう関係性に配慮し、対応している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などには、ご入居者の方々の状況報告に努めると共に、日々支援の方向性について検討し、信頼関係が築けるよう努めている。 ※感染症対策のため、面会に制約あり。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の意向、状況に合わせてご家族の方と相談し、可能な限り、個別外出の機会を提供したり、実現できるよう努めている。 ※感染症対策のため、外出制限あり。	コロナの感染状況による面会の時間や、回数などのお知らせを家族へ送り、コロナ禍でも継続して面会を行っています。家族との外出も相談しながら、可能な限り実現できるように支援しています。遠方の家族との連絡には事業所の電話で取次ぎの支援をしています。日記をつけている方や、家族の用意した年賀状を書いていただくなど、馴染みの関係を継続できるよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の日課、散歩、アクティビティーを中心に、入居者の方々の自発性を重視し、入居者個人の生活を演出できるよう取り組みを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後のご様子や経過等、連絡を取りながら、随時、相談等の支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族様からの情報、アセスメント情報をもとに、ご本人の状況を十分検討しつつ、可能な限りご本人、ご家族の想いが個別ケアとして実施されるよう取り組みを行っている。 感染症対策により、面会、外出制限あり。	入居時には、自宅や施設へ訪問して本人、家族、介護支援専門員から、生活歴、既往歴、ADL、暮らし方の希望など聴きとり、面談表を作成し、入居後も本人、家族の想いが実施されるよう取り組んでいます。入居後は、アセスメント表を手元に置き聴き取り情報との違いや、新たな情報など記入しています。職員の出勤時には、アセスメント表と、連絡ノートを確認して情報を共有しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方からの情報をもとに、ご本人がこれまでの生活を可能な限り継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態に合わせて、ご本人の身体面、精神面を十分に考慮しつつ、その人らしい生活が提供できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者様の状況がスタッフ全員で把握できるよう、申し送り、モニタリングの機会を活用し情報の共有に努めている。また、面会時や、状態の変化に合わせて、随時ご家族の方と相談の機会を設け、意見聴取したものをまとめ、支援の方向性をスタッフ間で共有している。	新規の場合は、入居時のアセスメント表に基づき、暫定介護計画を作成して、2週間様子を見ながら経過観察を実施しています。その後、介護計画書を作成して3～6ヶ月でモニタリングやケアカンファレンスを開催して、更新の介護計画書を作成しています。ケアカンファレンスでは、事前に本人や家族の意見聴取を行い、常勤者とケースに拠っては看護師も参加して、その方の自立に向けた介護計画を作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきにつながるよう、日々のありのままの様子を事実のまま記録するよう努めている。また、ケアプランの実施経過については、目標達成の評価へつながるよう改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の状況に合わせて十分な説明、相談の機会を設け、可能な限り、柔軟かつご負担にならないよう配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の意向に沿って、可能な限り、個人ケアを実施できるよう努めている。 ※感染症対策のため、外出制限あり。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各ご家族のご事情に合わせて、協力医療機関を決定し、状況に応じて協力医療機関への通院の同行を行っている。現状では、24時間対応の内科、神経内科(月1回) 接骨院(随時)、歯科(随時)の往診あり。また、週1回看護師の健康観察と連携を図っている。	入居時に協力医療機関について説明し、本人及び家族の意向を尊重して主治医を決めています。協力医療機関の内科医は、神経内科も担当して月2回の訪問診療があります。歯科医は、必要に応じての往診と歯科衛生士による口腔ケアの往診があります。職員の看護師が週1回来て健康観察を行っています。緊急時や夜間など、24時間で内科医及び看護師への連絡体制が構築されています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットごとに医療面からのアプローチを行っている。また、必要に応じて内部研修の実施。日常的な心身の状態の変化については、随時連絡を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族からの情報、面会時のご様子、また担当看護師、主治医と退院にむけたホームからの意向を確認。随時状況把握に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族からの意向、ホームの方針を十分に相談、ご理解して頂いたなかで、支援計画書を作成。心身の状態については、随時報告、終末期のあり方については、早期に方向性が示されるよう、主治医を含め検討を行っている。	入居契約時に、重度化や終末期の対応と延命処置の確認の同意書を取り交わしています。食事摂取が困難など、心身の状態に変化が見られた場合は、主治医・家族・管理者による話し合いの場を設け、今後の方針を決めています。家族の意向で看取りを行う場合は、看取り介護計画書を作成して、家族の協力の基、穏やかな最期を迎えられるように支援しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成、各職員が周知できるよう努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回の防災訓練の実施。また、民生委員を通じて地域の防災対策の情報をいただいたり、連携に努めている。また、災害時に備えて懐中電灯、カセットコンロ等の備品や食材、水の備蓄、発電機を備えている。また地域で実施される防災訓練には、職員が可能な限り参加。	防災訓練は年2~3回実施しています。避難誘導を中心に昼夜想定で、事業所の災害と近所での火災なども考慮して実施しています。海拔が低く海岸も近いため、津波時のマニュアルも作成して高台の場所や避難経路についても検討しています。災害時の備蓄で米、水などと懐中電灯、ガスコンロ、発電機なども用意しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには十分注意を払い、言葉かけや対応にも自尊心に配慮しつつ、個々の状況に合わせて対応している。	事業所の運営方針の中で～入居者の権利の尊重～と掲げており、プライバシーの保護や、尊厳の維持についても明記しています。言葉遣いは外部の人が聞いても不愉快にならない言葉遣いを基本としています。接遇・マナーや人格の尊重については、入職時及びその後の研修で説明しています。個人情報や肖像権の使用については、入居時に説明をして同意をいただいています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	随時、職員間で情報が共有できるよう努め、可能な限り、外出等の個人ケアの充実に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況等に配慮しつつ、その方に合ったペースで生活できるよう柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の自己決定を大切に個人の状態に合わせて、支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて、盛り付け、片付け等の作業を手伝っていただいている。また適宜、外食の機会を設け、入居者の方が食事の機会が楽しみとなるよう支援している。	食材は、レシピ付きの主に湯煎の物を調達し生野菜などを追加して提供しています。コロナ禍以前は、外出行事等で外食の機会がありましたが、現在はフリーメニューの日を設けて、お寿司などの希望メニューの提供をしています。誕生日会には、ケーキを購入しておやつ時に皆さんでお祝いしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて、食事量、水分量のチェックを行い、体調管理に努めている。また、ご本人の嗜好、状態にあわせたメニュー、また調理法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	チェック表を用いて、毎食後の口腔ケアを実施している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ使用の有無の確認、排尿パターン、排尿量のチェック等を行い、状態に応じて、随時フロアー内で検討、機能向上に向けた取り組みを行っている。	排泄の自立の方も数名いますが、他の方は食事の前後に、一人ひとりの排泄パターンに合わせた声かけや、トイレ誘導にて排泄支援を行っています。オムツを使用される方でも、尿意や便意のある方は、2人介助でトイレでの自立排泄に向けて支援しています。夜間はフロアー内で検討してトイレ誘導するか、睡眠優先にするかの対応をしています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容、水分摂取量、活動量に配慮し、主治医と連携し下剤等の調整を随時行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個人の状況に合わせて、個々の状況にあわせて、時間に追われることなく入浴、清潔保持ができるよう、必要に応じた介助、対応を行っている。なお、安全にゆったりと入浴して頂くための職員配置のため、入浴時間は毎日午後としている。	入浴は、1日に3人の方が入浴して週に2~3回入浴しています。基本的には1対1の対応でゆっくりと入浴していただくようにしていますが、立位等の介助が必要な方には、安全を確保するためにも、職員2名で対応して入浴支援を行っています。希望がある場合には、同姓介助にも対応しています。入浴を楽しんでいただくために、入浴剤を使用したり、季節のゆず湯や菖蒲湯も行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動、体調面に配慮しつつ、生活のリズムが安定するよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状況に合わせて、主治医と連携し、内服薬の調整を行っている。また、薬局とも誤薬等がないよう処方変更等がある場合には、確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に合わせて、家事や散歩、趣味にあわせた活動を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨天時以外は、希望に応じてホーム周辺の散歩を行っている。	コロナ禍で、家族と一緒に外出など機会が少なくなっていますが、天気の良い日には事業所周辺を10～15分程かけて散歩にお連れしています。春にはドライブで、桜の花見を見物人の少ない場所を選んで行うなど、感染症対策を講じながら外出支援を行っています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族とご本人の意向にて、預かり金を使用、管理している。※現在対応者なし		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の意向、状態に合わせて、手紙の執筆や電話の使用を支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調、換気等に注意し、清潔保持に努めている。また、季節に応じた飾りつけなどを工夫している。	共用部分のリビングや廊下には、季節や行事に合わせた切り絵を利用者と一緒に作成して掲示しています。レクリエーション活動で書いた習字の作品の展示もあります。リビングには食事テーブル以外に、ソファや椅子を置き寛げる場所になっています。空調管理や換気も細目に行い、乾燥期には加湿器を使用して湿度管理をしています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同志の関係性に配慮し、自発的な行動ができるよう環境の演出に努めている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族、ご本人と相談の上、安全かつ落ち着いた環境となるよう配慮している。	居室は広々としてエアコン、クローゼット、洗面台を完備しています。テレビや整理箆筒、家族写真のアルバムなど夫々を好きな場所に配置しています。居室でテレビを観たり編み物をしたり、日記をつけている方もいます。室内の整理や、衣替えなどは居室担当の職員が支援しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の状態に合わせて、ご家族に相談、安全に生活できるよう環境の整備に努め、個人ケアに取り組んでいる。		

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホームゆう愛

作成日 令和4年10月18日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	これまでのケアプランの作成から実施、評価、再検討までの取組みが、今後も継続的に実践できるよう取組みを行っていく。	ケアプランに沿った支援が適切に提供できる。	これまで行ってきたケアプラン作成から評価までの取組みを継続し、プランが日常ケアとして実践できるよう職員間の情報共有を深めていく。	6ヶ月
	2	※同上	ご利用者様の想いに沿ったケアが実践できる。	ご利用者様の日々の行動、言動等の詳細把握に努め、各職員が個々にあったケアが実践できるよう、より情報共有を深めていく。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホームゆう愛
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	明るく家庭的な雰囲気の中で、個々に状況に応じて自立した生活ができるよう支援している。また、各ユニットの特性を活かし、チームケアをかかげ、個々の職員の能力に合わせた人材育成に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	七夕、夏祭り等の地域行事への参加、中学生の体験学習、その他ボランティアの依頼、受け入れを行っている。また、散歩などの際は、日常的な挨拶をホーム全体で行えるよう心掛けている。また、地域での防災訓練等は、ホーム職員が可能な限り参加するよう努めている。 ※感染症対策のため、本年は未実施。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	挨拶を中心に近隣住民の方との交流に努めている。町内会のお祭り際には、ホーム駐車場を休憩所として頂き、お神輿見学を兼ねて、地域交流を行っている。 ※感染予防にてお散歩のみ実施。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々、ご家族のご意見を可能な限り、ホームに反映できるよう取り組みを行っている。家族懇親会をご家族同志の交流を目的として実施。運営推進会議と合わせて行っている。 ※感染症対策のため意見聴取を行い、ホーム職員のみで実施。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議、ご家族からの相談、またその他ホームにおける取り組みなどの確認事項等は、日常的に行うよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わず、玄関チャイムを設置。常勤職員を中心に各職員が理解できるよう、人材育成、指導を行っている。また、身体拘束適正化における指針をもとに、委員会、研修会を定期的実施している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常勤職員を中心に各職員が周知できるよう、人材育成、指導を行っている。また、身体拘束適正化における指針をもとに、委員会、研修会を定期的実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまでの事例を活かして、常勤職員を中心に各職員が周知できるよう、人材育成、指導を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約における重点事項については、十分にご理解を得られるよう説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的にご家族の方との信頼関係が築けるよう努め、安心できるホームとなるよう日々改善に取り組んでいる。また、意見箱を設置し周知し、家族懇親会、運営推進会議、外部評価での家族アンケート結果でのご意見、提案を参考にし改善に努めている。対応等の改善については、各ご家族様に説明を個別に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットごとに2ヶ月に1回のフロアー会議の開催、また事業所全体の課題解決にむけた取り組みとして常勤会議を開催している。日常的に職員の関係性を深め、改善点等には積極的に取り組むよう努めている。 ※感染症対策のため、会議は必要時のみ実施。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	試用期間後、また年度末に個人面談を実施。各職員の就業態度、実績に応じた評価を行っている。		
13	10	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の状況に合わせて、可能な限り外部研修への参加、会議内での内部研修に努めている。また、日々の業務の中で、指導が行えるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議（希望事業者）、また市のグループホーム協議会を通じて、研修会に参加。懇親会、ボランティア等には積極的に参加できるよう心掛け、他事業所との情報交換、共助に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ご本人の状況をふまえ、面会等の必要性など随時ご協力をお願いしながら、安心して過ごせる為の環境の構築に努めている。また、状況に合わせて、ご家族と密に連絡を取るよう努めている。 ※感染症対策のため、面会に制約あり。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの体制をご理解いただいた上で、密に連絡を取り、可能な限りご家族様の意向を考慮できるよう努めている。また、各ご家族の要望等フロアー職員にが周知できるよう情報の共有に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の様子、生活歴を十分検討し、ご家族の方と密に連絡を取りながら、ご事情に合わせて支援の方向性を示せるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	明るく家庭的な雰囲気の中で、個々の状況に応じて、生活の場として演出できるよう関係性に配慮し、対応している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などには、ご入居者の方々の状況報告に努めると共に、日々支援の方向性について検討し、信頼関係が築けるよう努めている。 ※感染症対策のため、面会に制約あり。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の意向、状況に合わせてご家族の方と相談し、可能な限り、個別外出の機会を提供したり、実現できるよう努めている。 ※感染症対策のため、外出制限あり。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の日課、散歩、アクティビティーを中心に、入居者の方々の自発性を重視し、入居者個人の生活を演出できるよう取り組みを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後のご様子や経過等、連絡を取りながら、随時、相談等の支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族様からの情報、アセスメント情報をもとに、ご本人の状況を十分検討しつつ、可能な限りご本人、ご家族の思いが個別ケアとして実施されるよう取り組みを行っている。 感染症対策により、面会、外出制限あり。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方からの情報をもとに、ご本人がこれまでの生活を可能な限り継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態に合わせて、ご本人の身体面、精神面を十分に考慮しつつ、その人らしい生活が提供できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各入居者様の状況がスタッフ全員で把握できるよう、申し送り、モニタリングの機会を活用し情報の共有に努めている。また、面会時や、状態の変化に合わせて、随時ご家族の方と相談の機会を設け、意見聴収したものをまとめ、支援の方向性をスタッフ間で共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきにつながるよう、日々のありのままの様子を事実のまま記録するよう努めている。また、ケアプランの実施経過については、目標達成の評価へとつながるよう改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の状況に合わせて十分な説明、相談の機会を設け、可能な限り、柔軟かつご負担にならないよう配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の意向に沿って、可能な限り、個人ケアを実施できるよう努めている。 ※感染症対策のため、外出制限あり。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各ご家族のご事情に合わせて、協力医療機関を決定し、状況に応じて協力医療機関への通院の同行を行っている。現状では、24時間対応の内科、神経内科(月1回)接骨院(随時)、歯科(随時)の往診あり。また、週1回看護師の健康観察と連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットごとに医療面からのアプローチを行っている。また、必要に応じて内部研修の実施。日常的な心身の状態の変化については、随時連絡を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族からの情報、面会時のご様子、また担当看護師、主治医と退院にむけたホームからの意向を確認。随時状況把握に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族からの意向、ホームの方針を十分に相談、ご理解して頂いたなかで、支援計画書を作成。心身の状態については、随時報告、終末期のあり方については、早期に方向性が示されるよう、主治医を含め検討を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成、各職員が周知できるよう努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回の防災訓練の実施。また、民生委員を通じて地域の防災対策の情報をいただいたり、連携に努めている。また、災害時に備えて懐中電灯、カセットコンロ等の備品や食材、水の備蓄、発電機を備えている。また地域で実施される防災訓練には、職員が可能な限り参加。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには十分注意を払い、言葉かけや対応にも自尊心に配慮しつつ、個々の状況に合わせて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	随時、職員間で情報が共有できるよう努め、可能な限り、外出等の個人ケアの充実に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況等に配慮しつつ、その方に合ったペースで生活できるよう柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の自己決定を大切に個人の状態に合わせて、支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて、盛り付け、片付け等の作業を手伝っていただいている。また適宜、外食の機会を設け、入居者の方が食事の機会が楽しみとなるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて、食事量、水分量のチェックを行い、体調管理に努めている。また、ご本人の嗜好、状態にあわせたメニュー、また調理法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	チェック表を用いて、毎食後の口腔ケアを実施している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ使用の有無の確認、排尿パターン、排尿量のチェック等を行い、状態に応じて、随時フロア内で検討、機能向上に向けた取り組みを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容、水分摂取量、活動量に配慮し、主治医と連携し下剤等の調整を随時行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個人の状況に合わせて、個々の状況にあわせて、時間に追われることなく入浴、清潔保持ができるよう、必要に応じた介助、対応を行っている。なお、安全にゆったりと入浴して頂くための職員配置のため、入浴時間は毎日午後としている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動、体調面に配慮しつつ、生活のリズムが安定するよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状況に合わせて、主治医と連携し、内服薬の調整を行っている。また、薬局とも誤薬等がないよう処方変更等がある場合には、確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に合わせて、家事や散歩、趣味にあわせた活動を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨天時以外は、希望に応じてホーム周辺の散歩を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族とご本人の意向にて、預かり金を使用、管理している。※現在対応者なし		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の意向、状態に合わせて、手紙の執筆や電話の使用を支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調、換気等に注意し、清潔保持に努めている。また、季節に応じた飾りつけなどを工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同志の関係性に配慮し、自発的な行動ができるよう環境の演出に努めている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族、ご本人と相談の上、安全かつ落ち着いた環境となるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の状態に合わせて、ご家族に相談、安全に生活できるよう環境の整備に努め、個人ケアに取り組んでいる。		

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホームゆう愛

作成日 令和4年10月18日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	これまでのケアプランの作成から実施、評価、再検討までの取り組みが、今後も継続的に実践できるよう取り組みを行っていく。	ケアプランに沿った支援が適切に提供できる。	これまで行ってきたケアプラン作成から評価までの取り組みを継続し、プランが日常ケアとして実践できるよう職員間の情報共有を深めていく。	6ヶ月
	2	※同上	ご利用者様の想いに沿ったケアが実践できる。	ご利用者様の日々の行動、言動等の詳細把握に努め、各職員が個々にあったケアが実践できるよう、より情報共有を深めていく。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。